

宜 基 渉 第 28 号
平成 27 年 11 月 2 日

第三海兵遠征軍司令官
沖縄地域調整官 ローレンス D. ニコルソン 中将 殿

宜野湾市長 佐喜眞 淳

CH-53E 型ヘリコプターの部品遺失について（抗議）

普天間飛行場は戦後 70 年もの長期間にわたって、本市のど真ん中に存在し続け、航空機事故の危険性や騒音をはじめとする基地負担など、市民生活に大きな影響を与えている。2004 年 8 月には、普天間飛行場に隣接する沖縄国際大学に米軍ヘリが墜落し、その後も、米軍機からの部品落下が相次ぐなど、市民の基地負担はもはや限界に達しており、同飛行場の危険性の除去及び基地負担軽減は、早急に実現しなければならない喫緊の課題である。

その様な中、10 月 30 日に沖縄防衛局より、普天間飛行場所属の CH-53E 型ヘリコプターが訓練飛行中に部品を遺失したとの報告を受けた。

市街地に囲まれた普天間飛行場では、米軍機によるトラブルが直接人命にかかわる事故に繋がりがねず、本市はこれまで事故のたびに抗議し、原因究明と再発防止の徹底を求めてきたが、一向に詳細な事故原因や具体的な再発防止策は示されず、今回のような事故が繰り返されている現状については、安全管理に真摯に向き合っているのか疑念を持たざるを得ず、決して看過できるものではない。

については、部品遺失について厳重に抗議するとともに、事故の原因究明及び具体的な再発防止策を図り、その内容を公表するよう強く求める。